

## シーズン中のマテリアルについて（2012～2013）

	種目	男女	国内 COC・ FIS	SAJ A・B級	B級大会参加 のチルドレン 選手	インターハイ 出場の早生 まれの選手	国体 成年C選手	国体少年の 早生まれの 選手	K1(U14) 選手	K2(U16) 選手
スキー長 (最短長) スキー長 許容差±1	SG	女子	200	200	年齢カテ ゴリーの 用具で可	年齢カテ ゴリーの 用具で可	X	年齢カテ ゴリーの 用具で可	体格、体力、 技能に適應し た スキー	175
		男子	205	205						
	GS	女子	180	180			180		130	130
		男子	185	185			185			
	SL	女子	155	155			X		130	130
		男子	165	165						
※SG,GSは、許容差±5cm摘要値(COCは除く) ※U18の男子選手は、FISレベルレース・SAJレースにおいて は、SL±10cmが許容される										
ラディウス (最小値)	SG	女子	33	33	年齢カテ ゴリーの 用具で可	年齢カテ ゴリーの 用具で可	X	年齢カテ ゴリーの 用具で可	体格、体力、 技能に適應し た スキー	27
		男子	33	33						
	GS	女子	23	23			23		14	17
		男子	27	27			27			
スキー高		男女 共通	50	50	50	50	50	50	50	50
ブーツ高		男女 共通	43	43	43	43	43	43	43	43

※スキー高は、スキー+プレート+ビンディングの合計値

※年齢カテゴリーの用具で可は、最小値の意味

※全てのハード及びソフトパーツを含むヒールの底部からスキーブーツソールまでの間隔

### セッティングに関して

- ・ K2選手が混在するレースにおいては、基本的に上位のレースカテゴリールールでのセットとする